

令和 8 年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

くろあわびたけの環境特性調査

令和 8 年 7 月 14 日(火)～15 日(水)

沖縄県では、自生くろあわびたけの栽培技術の確立に向け取り組んでいるところであり、今後、より優良な菌株の確保等が課題となってくるところであるが、県内での報告事例は少ない。

そこで、令和 8 年 7 月 14 日(火)から 15 日(水)にかけて、自生くろあわびたけの発生箇所のポイント、生育環境を確認するため、野生きのこ調査の第一人者であり、平成 23 年に西表島においてくろあわびたけを発見した村上康明氏と共に、西表島、名護岳、末吉公園にて調査を行った。

また本調査には、沖縄県森林資源研究センターおよび調査の受託者であるいであ株式会社も同行した。

平成 23 年に発見された西表島の干立集落のヤシ林内の環境特性を調査したところ、広葉樹も多く生育し、倒木や立ち枯れが多々あり、シロヒカリタケ等のきのこが生育する場所であった。また同様の箇所は、白浜林道等、西表島内の数カ所で確認することもできた。

また、沖縄本島内の名護岳や末吉公園においても、今後、確認できる見込みがあるものと思慮された。

今回、くろあわびたけは確認できなかったものの、シロヒカリタケ等、今後のきのこ生産振興の可能性のあるきのこもいくつか見つかった。

今後は、この調査結果を踏まえ、くろあわびたけ調査を継続し、優良な菌株の確保に努めたい。

【今回、発見できたきのこ(一部)】※ 右の写真はシロヒカリタケの発光の様子



報告者：森林管理課

仲里、桑江、石垣

八重山農林水産振興センター

比嘉、井口、砂川